

# 日点委通信

No.28

2012年11月1日発行

## 『資料に見る点字表記法の変遷』および 『ルイ・ブライユの生涯 天才の手法』の紹介

日本点字委員会から出版されている書籍の中から、2冊を紹介します。

1冊目は、日本点字委員会創立40周年記念事業『資料に見る点字表記法の変遷 — 慶応から平成まで —』（金子昭責任編集）です。日本に視覚障害者の文字が紹介されてから今日までの、日本語の点字表記の変遷をたどることのできる資料を収集し、解説を加えた書籍です。

海外の視覚障害者文字を日本に最初に紹介した資料は、江戸幕府からアメリカに派遣された外国奉行の随員、柳川當清やながわとうせいがミズーリ盲学校（セント・ルイス）を見学したときの記録、『柳川當清航海日記』（1860年〔万延元〕）です。《盲目には紙に文字を高くすり出し、是を以教ゆるなり。》とあり、線字の一種だったと思われます。ではブライユ点字はいつ、誰によって日本に紹介されたか。幕府から派遣された外国奉行の随員であった岡田攝藏せつぞうがパリ盲学校を見学したときの記録、『航西小記』（1865年〔慶応元〕）です。岡田は、《盲人に教ゆるに…文字を以てせず、紙の面に凸く小點いんを印し、例へばイの字を印すれば ●の印しるしをなし、●●をロとなすが如く。》と、アルファベットをそのまま浮き出させたものではなく、特別な点を用いていることを報告しています。

本書は、『柳川當清航海日記』、『航西小記』をはじめ、全4回にわたって行われた「點字撰定会」の記録、小林新吉の点字、石川倉次の「拗音點字」、1901年官報に公表された「日本訓盲點字」、1911年の文部省「日本訓盲點字説明」、点字毎日掲載の石川倉次「點字の起源」、澤田慶治「外來音點字」、日本点字研究会「点字文法」など、現在では入手困難な合計39編の資料を部分復刻し、詳細な解説を加えています。また日点委の『日本点字表記法（現代語篇）』から『日本点字表記法 2001年版』ま

での表記の特徴が掲載されています。

墨字版：B 5 判、729ページ、2007年11月発行、価格3,675円。

点字版：全9巻、2009年8月発行、価格16,200円（「点字図書給付事業」の対象になります）。

2冊目は、日本点字制定120周年記念出版『ルイ・ブライユの生涯 天才の手法』（C・マイケル・メラ著、金子 昭 田中美織 水野由紀子共訳）です。

最新の研究に裏打ちされていることに加えて、「ブライユの数多くの手紙を紹介しながら、その生涯を描いていること」、「ブライユの生涯を当時の歴史的、社会的背景の中で描こうとしていること」などが本書の特徴です。フランス革命後の混乱した社会において、一人の天才がどのように点字を創り上げていったのか。また欧米において、ブライユの点字が受け入れられるまでに年月を要したのはなぜか、などが、詳しく描かれています。

目次：家庭／クーヴレ／ヴァランタン・アユイ／学校生活／ブライユの点字記号／教師／音楽／ドットマトリックス印字方式／点字の禁止／点字の世界的な広がり／ルイ・ブライユの生家への案内／ルイ・ブライユの親族について／年表。

墨字版：B 5 判、232ページ、2012年6月発行、価格2,100円。点字版：準備中。

この2冊を通して、文字を手に入れるために苦闘した一人の天才の生き方に接することができ、日本において、視覚障害者の文化のためによりよいものを創造しようとする取り組み、努力した先達の叡智と決断に学ぶことができます。ともに一読したい書物です。

## 日本点字委員会研究協議会並びに第48回総会報告

日本点字委員会は、2012年6月2日（土）・3日（日）の両日、横浜あゆみ荘（横浜市都筑区葛が谷2-3）において、日本点字委員会研究協議会並びに第48回総会を開催し、次の事項を協議した。出席者は48名（うち委員20名）。

### 総会審議事項

1. 委員交代。盲教育界代表委員、菊池理一郎氏（宮城県立視覚支援学校）が田村亘氏（岩手県立盛岡視覚支援学校）に交代した。日盲連会長と盲学校長会会長は職責

上学識経験委員をお願いしているが、日盲連会長は笹川吉彦氏から竹下義樹氏に交代、盲学校長会は、現在は空席。渡辺勇喜三氏は学識経験委員を退任された。

[追記・後日事務局会において、その後の交代も含めて次のとおり確認した。盲人社会福祉界代表委員を次のとおり交代する。点字出版部会：高橋秀治氏（ロゴス点字図書館）→白井康晴氏（東京点字出版所）。情報サービス部会：高橋恵子氏（視覚障害者総合支援センターちば）→大澤剛氏（三重県視覚障害者支援センター）。盲学校長会選出の学識経験委員交代：田中省三氏→荒井勝夫氏。]

2. 2011年度ホームページ利用状況について報告が行われた。

3. 『ルイ・ブライユの生涯 天才の手法』出版に至る経過が報告された。

4. 世界点字協議会（WBC）に関する報告が行われた（田中徹二副会長）。世界盲人連合（WBU）が2009年のルイ・ブライユ生誕200年に当たり、WBUとして点字を見直す必要がある、ということで、2012年までの3年間にわたって会議を開くことを決めた。WBCは1回目を2009年、マドリッドで行い、その活動方針を決めた。第2回会議は、2011年1月にデリーで開催され、その中でユネスコから発行されている“World Braille Usage”（世界点字一覧表）の第3版を発刊してもらおう、などが決議された。また、日本からISOのTC175/SC7（アクセシブル・デザイン）に、「点字サインの原則」を提案するので協力してほしいと要請した。さらに、国際会議「点字21」をドイツ・ライプツヒヒで2011年9月に開催することで、その企画が報告された。「点字21」は、世界各国から約400人の点字専門家が集い、点字に関するさまざまな研究や実践が報告された。会議終了後、WBC第3回会議が開催された。

5. あり方検討委員会の答申（後出）を受けて協議を行い、次の2点が承認された。

①『『日本点字表記法』検討委員会』を発足させる。委員会の任務は、「あり方検討委員会」の答申を受けて、その中に示されている課題を中心に、その内容、及び解決策について検討する。検討の期間については、2年を目途とする。途中経過を総会に報告する。「検討の過程において、会員、事務局員、会友に可能な限り情報提供して、意見の集約に努める」旨の要望があった。②委員について、木塚泰弘会長より、「あり方検討委員会」7名（金子昭、藤野克己、加藤俊和、加藤三保子、福井哲也、宮村健二、渡辺昭一）に、木塚泰弘、田中徹二、当山啓、岩屋芳夫、白井康晴、水谷吉文の6名を加えた計13名が提案されたが、その扱いについては事務局会に付託する。

[追記・総会で事務局会に付託された「日本点字表記法」検討委員会の構成について、総会における提案どおりの計13名が、会長より委嘱された。]

## 研究協議

1. 昨年、近畿点字研究会より提起された「外文字で書き表すことができる用例の追加・変更に関する提案」について討議した。この問題はいったんここで終わらせ、もしさらに提案があれば近畿から改めて出してもらおうこととした。

2. 東海点字研究会より「カッコ類の切れ続き」および「数を含む語の書き表し方」について提案が行われた。この提案を持ち帰り、各地域で検討・討議し、次回総会において報告することとした。

3. 「点字表記法」あり方検討委員会より、『日本点字表記法』のあり方について（答申）が報告された。はじめに「表記法」の役割について提起された。次いで各諮問項目について検討結果が報告され、「2001年版」には、多くの課題があることを確認した。これらの課題を解決し、よりよい「表記法」とするために、「表記法」改訂のための新しい段階に踏み出す必要があるという認識で一致した、と結ばれた。答申を受け、表記法の検討に入る方向で進むこととした。

4. 「医学用語の点字表記について」が公表されてから1年経過したが、①あはき国家試験の点字表記にどの程度反映されたか、②各施設・団体での扱いについて、報告が行われた。

5. 関東地区小委員会より、『日点委のあり方』について寄せられた意見（「日本の点字」第35号に掲載）について報告が行われた。会則に基づいて、委員の務めを確認した。

6. ①近畿点字研究会から、「第47回日点委総会に提出された木塚委員の提案に対する近畿点字研究会の検討経過と意見のまとめ」が報告された。

②木塚泰弘委員より、「昨年の総会に対する『提案の一部修正と補足』」の提案が行われた。都合2回にわたって討議したが、疑問視する声、新たな混乱を招くといった意見があり、「提案を受けて討議をした」という形でまとめた。

### 日本点字委員会事務局

〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1丁目23番4号 日本点字図書館内

電話 03(3209)0671 FAX 03(3209)0672 振替口座 00100-1-42820

ホームページ <http://www.braille.jp/>